

令和6年水稻管理作業のポイント

移植深に注意

- 田植え時の**適正移植深は1.5～2.0cm**です。第1葉の付け根が田面から出ているか確認しながら移植作業を進めましょう。大苗や強風時は特に注意が必要です。
- 深植えになると生長点付近の温度が低くなり**初期の茎数確保**が劣ります。



写真 移植深により分けつの発生に大きな差が生じる（同一農家での事例）

ケイ酸質資材の施用

- 現在の水田は、ケイ酸が不足している場合が多いため、土壌中の可給態ケイ酸含量を測定し、適正量を施用しましょう。特に昨年度、**倒伏やなびき**が見られた場合は、**稲体を丈夫にする**ために継続的な施用が有効です。
- ケイ酸質資材を幼穂形成期後1週間目に追肥することで窒素の利用効率が上がる事が確認されており、米粒の**低タンパク化**や**不稔籾の発生**の抑制などが期待されます。

追肥量の基準：ケイ酸質資材 20kg/10a

表 ケイ酸肥沃度別のケイ酸質資材施用量

可給態ケイ酸 (mg/100g)	ケイカル施用量 (kg/10a)
10未満	180～240
10～13	120～180
13～16	60～120
16以上	0～60

